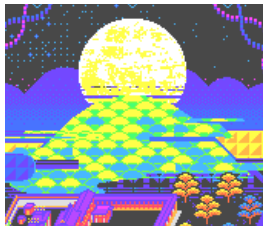
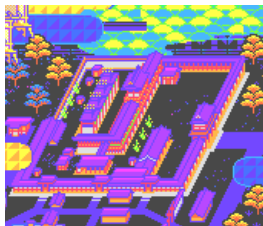


SCORE は春日大社の創建年（神護景雲2年）、HI-SCORE と STAGE は本作完成年月日、TIME は作品の完成時刻（16:00）を表しています。



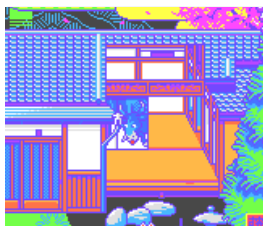
「春日宮曼荼羅」は平安時代末期から中世にかけて多く制作、遙拝されてきました。多くの作品に共通するのが、画面の上部に春日山、春日大社の神体山である御蓋（三笠）山、そして、その下に広がる春日大社御本殿および若宮神社です。



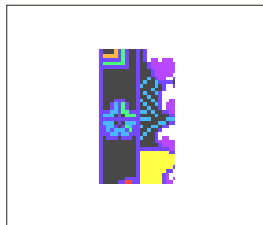
春日大社御本殿



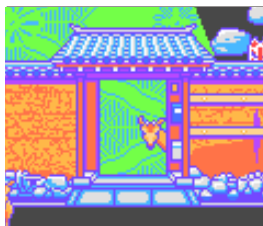
古代からの作例に認められる1つが、画面中央の一之鳥居です。多くの作品は、この一之鳥居の下部に樹木や畑など自然豊かな春日野が広がっていますが、本作では今日まで続く藤間家住宅を描いています。



藤間家の中央に描かれているのは、狩野派絵師・勝山琢眼による牛の模絵。藤原家と菅原家の関係を示す模絵ですが、現在は住宅とは別の場所に保存されています。



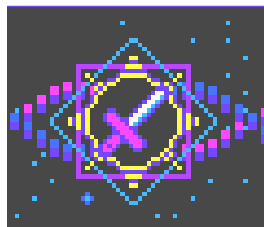
藤間家の柱の飾り金具。
どこにあるのか探してみてくださいね。



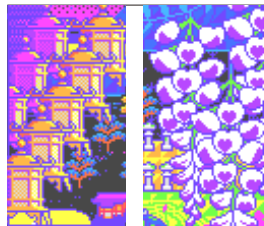
藤間家住宅には表門を潜って、鹿が訪れます。お庭に突っ込んだ果物を食べに来るのだとか…



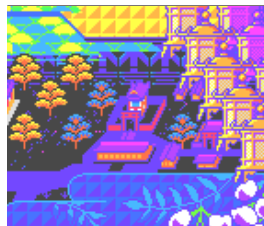
神鹿として親しまれている奈良公園の鹿には、神様を乗せて大和に降り立った白鹿の名残で、脚に特徴的な白い斑点があると云われています。実際、遺伝子的にも独自の進化をしていることが近年の研究で明らかになりました。



5つのアイコンは春日大社の五柱の神々に垂述する本地仏を、円相内に和魂として描いています。
十一面観音（アメノミツタテルヒメ）：鏡（玉）
地藏菩薩（アメノコヤネ）：口（音）
薬師如来（フツヌシ）：剣
釈迦如来（タケミカツチ）：雷
文殊菩薩（アメノオシクモ）：水



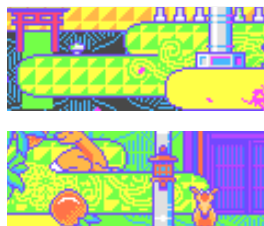
左右に描かれているのは、春日大社に800年以上前から今日まで続く1000基もの釣燈籠と、春日大社の社紋である藤の花。日本最古の万葉植物園である春日大社境内の萬葉植物園には、毎春、20品種、約200本の藤が咲き誇ります。



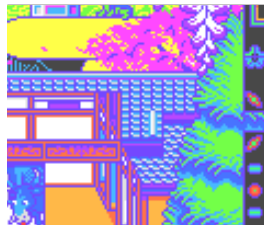
若宮神社



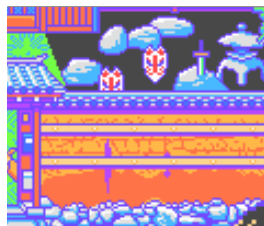
春日大社の境内には800年以上前から今日まで続く2000基もの石燈籠が奉納されています。大きく描かれているのは春日大社で最も古い「柚木型石燈籠」。1136-37年頃、関白・藤原忠通に奉納されたと伝わっています。足元にいるのは春日山原始林に生息するモリアオガエルです。



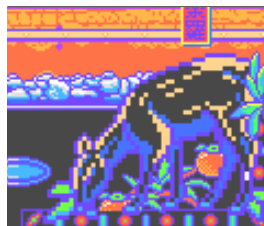
黄緑の雲の中にだけ描かれている模様は、藤間家の欄間です。左右で絵の抜きが反転していることから、陰陽を表していると考えられます。



藤間家の外玄関横には御神木の高野槇、裏庭には樹齢約60年の桜、家の周りには柿や杏の木が描かれています。



藤間家の周りを囲む土塀と門構えは、藤間家が春日神官の屋敷であった当時の景色を今に伝えます。2022年、土塀は受け継がれてきた姿を未来に残せるようクラウドファンディングで集まった支援によって保全修復されました。表門入ってすぐ右には、今も狐様が祀られています。



藤間家の周りに遊びに来る鹿は、柿よりも杏を食べるのだとか。

藤間宮曼荼羅